

# 今月のお知ら世

<u>~~~~~</u>

感染症や気象状況によっては、事業を変更する場合があります。ご了承ください。

誰でも

参加OKです。

皆様のご参加をお待 、ちしています! /

#### 健康サロン

日時:11月 4日(火)、18日(火)

13時00分~

場所: さわやか人権文化センター

内容:**健康マー**ジャン

〜賭けない・飲まない・吸わないをモットーに 仲間づくり・健康づくりを実現しましょう〜

初心者歓迎します

#### ペン習字教室

日時:11月17日(月)13時30分~

場所: さわやか人権文化センター

内容:「絵手紙」「実用的な書」

~いつでも、どこでも、 誰でも、楽しめること~



# 「みんなの楽級」参加者募集!

日時: 11月20日(木) 13時30分~

場 所:さわやか人権文化センター

内容:ガーデニング 花の寄せ植え

参加費:(材料代) 1,000円程度

定 員:15人程度

参加申込先: さわやか人権文化センター (電話・FAX 28-2017)

申込締切:11月13日(木)

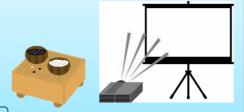


昨年の寄せ植え

### お知らせ

個人の時間に合わせて楽しむことができるように下記を準備しています。

- ●囲碁、将棋各1セット お仲間同士の対局、棋譜の検討などに
- ●シアターセット (DVD のみ対応) 普段とは違うサウンドで楽しんでみませんか? (DVD はご持参お願いします)



※ 11 月 11 日(火)13 時 30 分より 映画「破戒」を上映します。

## 困りごとはありませんか? 人権が侵害されていませんか?

悩みごと・生活に困っていることがありましたら、どんなことでも、1人で抱えこまずにご相談ください。

倉吉市 人権政策課 さわやか人権文化センター 差別落書きや差別発言などに遭遇されましたら、倉吉市人権政策課もしくは人権文化センターにご相談ください。

電話 22-8130 電話/FAX 28-2017 さわやか人権文化センターだより



2025年11月1日発行 No.373 〔発行所〕さわやか人権文化センター

〔所在地〕 〒682-0602

倉吉市上米積 1074-1 [電話兼ファックス] 0858-28-2017 [メールアト・レス] sawayaka@ncn-k.net

センターだより「さわやか」に関するご意見・ご要望をおよせください。

# 第28回

# さわやか人権フェスティバル

開催日 11月29日(土)~12月1日(月)

会場 さわやか人権文化センター

テーマ みんなでつくろう 人権の和

~ スローガンから行動へ まずは近くのひとりから ~

## 11月29日(土)

13:30 開会式

人権問題講演会 「ひとごと」から「わがこと」へ ~語り合い、夢を託す~

講師 森口健司 さん

## 11月30日(日)

11:30 食事サービス

13:30 啓発ビデオ上映

①鳴門市の中学校生徒がつくった 「戦争を語り継ぐ人権劇 三部作」

②「倉吉にあった秘匿飛行場 生証言」

## 作品展示: 11月29日(土) ~ 12月1日(月) 9:00~17:30



手芸品、寄せ植え等の教室作品及び個人の作品、 保育園・児童センター・小学校児童・中学校生徒の 共同作品、食生活改善啓発など展示します。

## 展示作品募集中

地域の講座でつくった作品や趣味でつくった作品をフェスティバルに 展示しませんか。 連絡をお待ちしています。

連絡先: さわやか人権文化センター 電話: 0858-28-2017

**カレーライス(無料)サービス:11月30日(日)** 11:30~

先着 50食 ※無くなりしだい終了します。



# 人権問題講演会

日時 11月29日(土) 13:30~

題目「ひとごと」から「わがこと」へ ~語り合い、夢を託す~

講師 森口健司 さん

<mark>(T-over人権教育研究所・人権こども</mark>塾 共同代表)

#### 森口健司さんプロフィール

1959年 徳島県生まれ。大学時代、京都での被差別体験が、教職へと思いを強くする。卒業後、中学校教師になり、子どもたちの心に響く同和教育を模索する中、1990年度より板野中学校において「生徒が生徒を変える語り合いの人権・部落問題学習」(全体学習)を創造する。

1993年度文部科学省道徳教育読み物資料作成協力者会議の委員となり、「中学校読み物資料とその利用」の作成にかかわり、道徳資料として家族への感謝をテーマとした「スダチの苗木」と結婚差別の現実を題材に部落差別解消への願いを込めた「峠」を著す。

2024年12月には、NHKラジオ深夜便・人権インタビュー「語り合い、夢を託す」に出演し、 部落出身教師として取り組んできた「語り合いの人権学習」と道徳資料「スダチの苗木」に込め た思いを伝えている。

【共催:高城地区同和教育推進協議会、部落解放同盟倉吉市協議会】

# 戦争と平和を考える ビデオ上映



高城飛行場跡

日時 | | 月30日(日) | 13:30~

日程 13:30~ 鳴門市の中学校生徒がつくった

「戦争を語り継ぐ人権劇 三部作」

15:15~「倉吉にあった秘匿飛行場 生証言」

鳴門市の中学校生徒がつくった 戦争を語り継ぐ人権劇 三部作 「帰郷」「蒼海のホタル」「慟哭の海」

2014年~2019年制作

この人権劇は中学生自身が、戦争中に実際にあった出来事を伝えるために、当時少年・少女であった体験者に聞き取りを行うことで、制作しました。

戦時下、当時の少年少女たちがどのような境遇におかれたのかを、同世代である現在の中学生たちが伝えています。

#### 「倉吉にあった秘匿飛行場 生証言」

太平洋戦争の終戦間際につくられた「高城飛行場」。 今年6月20日に山陰中央テレビが放送した映像と、その取材で撮った地域の方の証言映像を上映します。

高城飛行場の建設にあたり、14戸の家屋の強制移転とつぶされた田は20町歩を数えました。そして子ども や年配者や女性など多くの人が動員させられました。

飛行場は使用されませんでしたが、戦時における動 員の涙とむなしさを伝える戦争遺跡と言えます。

# 多様性が尊重される社会に向けて

倉吉市では、「お互いを認め合い、安心して暮らせる人権尊重のまち」を目指し、性別、年齢、障がいの有無、国籍などに関わりなく、一人ひとりの個性が大切にされる社会に向けた取り組みを推進しています。今回は、性別に関する考え方や価値観が多様化しているなか、「多様性」について考えてみたいと思います。

#### 全中学校でジェンダーレス制服を導入

倉吉市内中学校では、生徒の多様性に対応するため、2026(令和8)年度からジェンダーレス制服(ブレザー等)を導入します。これは、違いを認めることができる学校環境をつくり、多様な中学生の自分らしさを応援する取り組みです。



#### 2024 (令和6)年度 第43回全国中学生人権作文コンテスト鳥取県大会 入選作品から

奨励賞「もっと自由に」

倉吉市立東中学校 1年 山崎希乃香

「女の子なのに、そういう服着るんだ」

5年生ぐらいのころ、こう言われるようになりました。その言葉があまり好きではありませんでした。男の人に なりたいわけではないし、気にしたこともなかったのですが、心のなかにモヤモヤが残る感じでした。

私は「女の子らしく」「男の子らしく」という言葉がとても苦手です。そんな事言われても、自分の思うように生きたいのに、と感じます。

私は最近「推し活」にハマっていて、お母さんに「高校生になったら、推しのライブを見に行ってみたい!」と言いました。でもお母さんには、「女の子だから危ないよ、近いところならいいかもしれないけど。」と言われてしまいました。お母さんが心配する気持ちもわかりますが、女の子だからという理由で、自分のやりたいことができないのは悲しかったです。自分が女の子に生まれたことが少し嫌になりました。

6年生の頃、下級生をまとめる班長になりました。私は、小さい子の面倒を見るのが好きで、よく自分から話しかけに行っていました。それを続けていると、少しずつ、仲良くしてくれる子が増えました。ある時、下級生の子にこんなことを言われました。

「班長ってなんか女っぽくないよね!」

軽い感じで言われたその一言に、心が締め付けられました。年下の子が言う言葉だからこそ、辛かったです。女 の子らしく、男の子らしくするのが当たり前な事が理解できませんでした。

周りの友達からも「〇〇〇ちゃんって男の子みたい」だとか言われました。「別にそうでもいいじゃん、本人が気にしている可能性もあるのに」と言いたくなりました。どうしてそんなことをいちいち本人に言うのか、もっと相手を気遣うべきではないかと思いました。

「女性らしく」「男性らしく」ではなく、「自分らしく」生きることができたら、きっと、生きやすい人は大勢います。「〇〇だからこうするべき」という固定概念を私は無くすべきなのではないかと思います。

これから生きていく中で、性別に対し悩みを抱える人と出会うことがあると思います。そんな時、個性を尊重 し、手を差し伸べることができる人に、私はなりたいです。

(鳥取地方法務局・鳥取県人権擁護委員会連合会発行 令和6年度 第43回 全国中学生人権作文コンテスト 鳥取県大会作品集より)

#### 私たちにできること

皆さんはこの中学生の人権作文を読んでどう感じられましたか。

私たちは、多様な面を持ち、いくつもの違う立場を持ち、多くの人や社会と関わりながら暮らしています。 誰もが「自分のまま」で安心して過ごせる社会を実現するためには、これまでの固定的な男女の枠組みから 脱却することが求められています。